

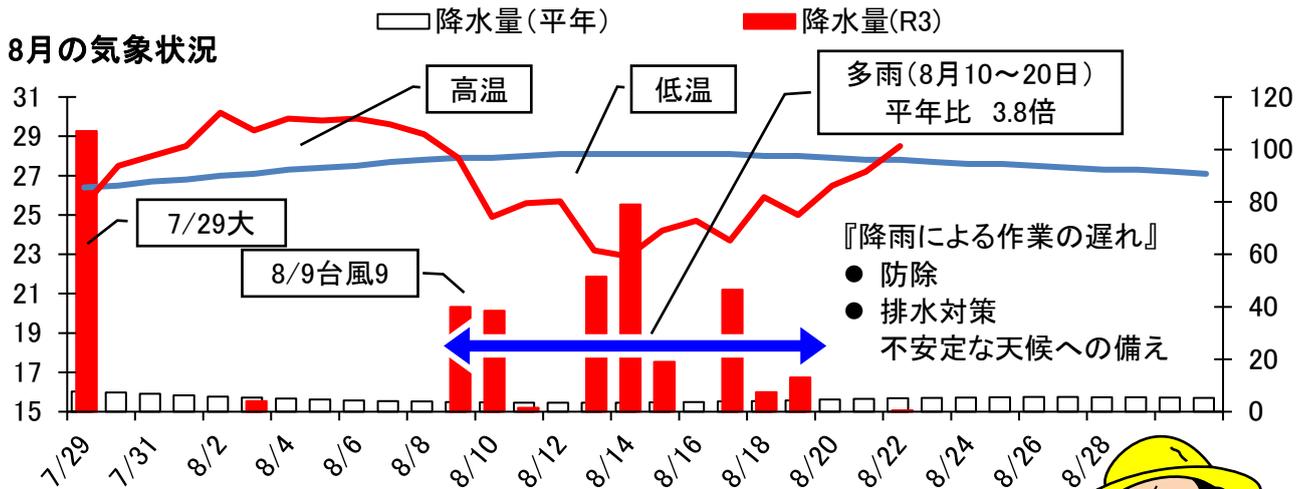


BeansPhoenix



【JA福井県産大豆の復活とさらなる飛躍を目指して】

現在の大豆は、播種後の高温や低温、少雨や多雨など荒い天候のなか概ね順調に生育しています。8月9日後の台風や長雨の影響により、防除など栽培管理が出来にくい状況になっています。今後は、基幹防除の実施と排水対策(乾燥時の灌水)が必要になります。ハナエチゼンの刈取など農作業が重なり大変ですが、天候を見ながらの防除、排水対策を実施しましょう。

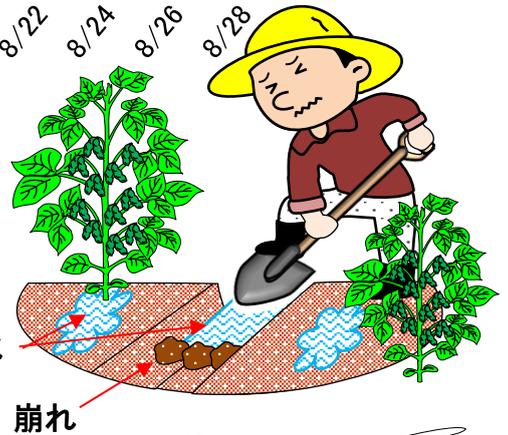


里のほほえみ、高収量・高品質へのポイント

1. 排水対策(停滞水の除去)

圃場に水が溜まりすぎると、生育不良を引き起こす可能性があります。水が溜まる場所については排水をよくするため明渠・額縁・排水溝の手直しを行いましょう。

- 排水溝・暗渠の栓の開閉。
多雨により土壌水分が多いことが考えられます。一時的に暗渠栓を外しましょう。
- 畝間かん水時は閉める→畝間かん水完了後は開けて排水→排水完了後は土壌水分を保つため栓を閉める。



2. 病害虫対策(2回目の実施)

8月中旬頃から8月下旬頃にかけては、紫斑病の予防と害虫防除を行うため殺菌殺虫剤の散布を実施しましょう。



防除:2回目		殺菌殺虫剤	紫斑病の予防と害虫防除
粉剤	マネーヅトレボン粉剤DL (収穫30日前、2回まで)	液剤	カスケード乳 (収穫7日前、2回まで)
	スミチオンベルコート粉剤DL (収穫21日前、4回まで)		アミスター20フロアブル (収穫7日前、2回まで)
		へり	ベルコートフロアブル (収穫7日前、4回まで)
			プレバソンフロアブル5 (収穫7日前、2回まで)
			アミスタートレボンSE (収穫21日前、2回まで)

※ 強風の影響により、葉焼病が出ている圃場は、(液剤)フェスティバルCを散布する。防除については、担当営農指導員へ相談下さい。

適期防除で収量・品質アップを目指しましょう。今回の『BeansPhoenix』は西部支店が担当しました。